

鳥取県立公文書館報

第29号
(令和元年度)

鳥取県立公文書館

目 次

公文書館の概要

1 設置の目的	1
2 機能	1
3 組織	1
4 平成31・令和元年度予算	1
5 平成31・令和元年度事業計画	2
〔 公文書担当 〕	2
(1) 引継ぎ	
(2) 整理・保存	
(3) 利用提供	
(4) 普及事業	
(5) その他	
〔 市町村協働担当 〕	3
(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議	
〔 県史編さん室 〕	3
(1) 新鳥取県史編さん委員会等の運営	
(2) 調査研究	
(3) 資料編の刊行	
(4) 鳥取県史ブックレットの刊行	
(5) 普及事業	

平成30年度事業概要

〔 公文書担当 〕	
1 特定歴史公文書等の引継ぎ等の状況	4
(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号アにより引き継いだもの	
(2) マイクロフィルムにより複製、保存しているもの	
(3) 刊行物等の行政資料	
(4) 寄贈、寄託資料（鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号ウによるもの等）	
2 整理・保存の状況	6
(1) 簿冊等紙資料の修復	
(2) 写真資料等の補修及び電子化	
(3) 複製本の作成	
(4) 簿冊の電子化	
3 利用の状況	6
(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第13条に基づく利用請求の状況	
(2) 行政資料等の利用状況	
(3) 閲覧室等での一般の利用状況	
(4) 閲覧室等での県職員の利用状況	
(5) インターネットによる公文書館ウェブサイトの閲覧状況	
4 展示の状況	7
(1) 常設展	
(2) 企画展	

5 縣市町村が連携・協力した歴史公文書等の保存活用の推進	・ ・ ・ ・ ・	8
(1) 縣市町村歴史公文書等保存活用共同会議		
(2) 明治150年特別企画展記念講演会		
(3) 明治150年特別企画展		
(4) 公文書館と図書館、博物館との連携		
(5) 歴史公文書等の保存活用に係る市町村との連携事業		
6 普及・啓発	・ ・ ・ ・ ・	9
(1) 鳥取看護大学講義		
(2) 岩美中学校第2学年道徳授業		
(3) 日野町古文書に親しむ会		
(4) 公文書等資料の保存と管理について講師を派遣		
(5) 県外からの依頼により講師を派遣		
(6) 鳥取県立公文書館報第28号の発行		
[県史編さん室]		
1 新鳥取県史編さん委員会等の運営	・ ・ ・ ・ ・	10
(1) 委員名簿		
(2) 会議		
2 各専門部会の活動	・ ・ ・ ・ ・	11
(1) 考古部会		
(2) 古代中世部会		
(3) 近世部会		
(4) 近代部会		
(5) 現代部会		
(6) 民俗部会		
3 刊行物	・ ・ ・ ・ ・	12
(1) 資料編		
(2) ブックレット		
(3) クレジットカード利用による刊行物の配送販売		
4 普及事業	・ ・ ・ ・ ・	12
(1) 講演会		
(2) 県史だよりの発行		
(3) ホームページの更新		

公文書館の概要

1 設置の目的

公文書館は、歴史資料として重要な県等の公文書、その他の記録などを保存し、県民の利用に供するとともに、調査研究を行うため設置し、県、市町村及び県民等が相互に連携し、協力して行う歴史資料として重要な史料の保存及び利用に関する中心的役割を果たすものとする。

2 機能

(1) 公文書の引継ぎ、整理及び保存並びに一般利用

鳥取県公文書等の管理に関する条例に基づき、歴史公文書等のうち、特定歴史公文書等として引き継いだものを整理・保存するとともに、一般利用に供する。

(2) 行政資料などの配架

行政資料・統計資料を自由に閲覧できるよう閲覧室に配架する。

(3) 情報の提供

県の施策その他県政に係る歴史的事実に関する調査研究を行い、その成果を企画展などを通じて情報提供する。

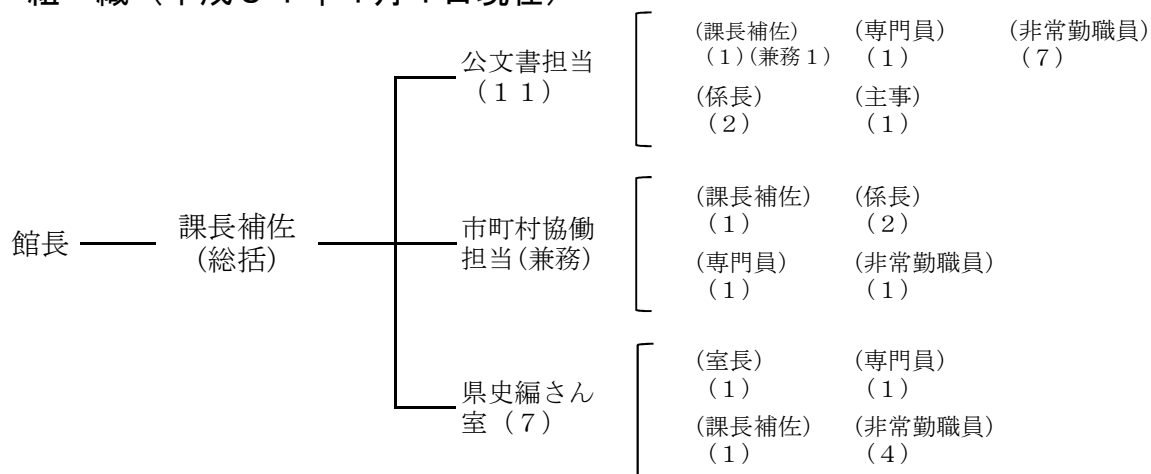
(4) 市町村・県民等との連携・協力

市町村・県民等の保有する歴史資料として重要な資料の保存・利用に関する専門的な情報の提供、技術的な助言等を行う。

(5) 県史編さん

新鳥取県史を編さんし、順次刊行するとともに、ブックレットの刊行、講演会の開催等の普及事業を実施する。

3 組織（平成31年4月1日現在）



4 平成31・令和元年度予算

(単位：千円)

事業名	当初予算額
公文書館管理運営費	13,445
公文書収集・保存・活用事業	4,667
公文書館センター機能強化・充実事業	7,057
新鳥取県史編さん事業	27,909
合計	53,078

5 平成31・令和元年度事業計画

〔公文書担当〕

(1) 引継ぎ

- ア 実施機関が作成した歴史公文書等について、保存年限満了後速やかに当館へ引き継ぐ。
- イ 引き継がれた簿冊について、早期に利用制限情報に関する審査や公文書管理条例制定前引継文書の再評価を行う。
- ウ 所蔵簿冊の点検を行い簿冊目録の整備を図る。
- エ 書庫の狭あい化に備えて、当面の書庫管理の適正化を図る。

(2) 整理・保存

- ア 簿冊（公文書綴り）等紙資料の修復
劣化・破損の著しい簿冊や寄贈を受けた貴重資料を、専門事業者に委託して脱酸、裏打ち、漉き嵌め（リーフキャスト）等で修復する。軽易な修復は職員が行う。
- イ 写真の電子化及び印画紙焼付け
利用度の高いものから順次電子化を行う。原板（ネガ等）は専用フォルダに収納すると共に、電子化されたデータを印画紙焼付け（L版）にして整理・目録化する。
- ウ 複製本の作成
類縁機関からマイクロフィルム撮影等によって収集した資料を複製本化する。
- エ 書庫の管理
IPM(総合的有害生物管理)を利用して管理すると共に、温湿度の管理を徹底する。
〔 ※IPMとは、従来のくん蒸剤による書庫及び資料管理に替えて、清掃による虫やカビの回避や、侵入ルートの遮断等予防に重きを置く方法。 〕
- オ 所蔵資料を保存し利活用するための基盤整備
条例施行前引継ぎ文書の評価促進。利用制限事前審査。デジタル資料公開に向けた所蔵資料のデジタル化。

(3) 利用提供

- 収集・整理した保存文書を、鳥取県公文書等の管理に関する条例に基づき、利用提供する。

(4) 普及事業

- ア 常設展
展示コーナー（館内及び共通通路）において、県政に関わる資料を展示する。共通通路については、話題性のある資料をもとに、年2回程度の入替を行う。
- イ 企画展
「鳥取大火の新収蔵写真」
（会期：平成31年4月12日（金）～4月28日（日））
「鳥取県ができるまで」
（会期：令和元年9月6日（金）～9月22日（日）予定）
「地方写真家が残した記録―振り返る昭和20-30年代―」
（会期：令和2年2月初旬～3月下旬）

(5) その他

- 鳥取県公文書等の管理に関する条例第26条及び鳥取県立公文書館管理運営要綱第27条に基づき、公文書館の事業概要等を掲載した『鳥取県立公文書館報』第29号を作成し、当館ホームページで公開する。

〔市町村協働担当〕

県市町村公文書等保存活用共同会議

県や市町村、県民の保有する歴史資料として重要な公文書等の適切な保存及び利活用推進について、県及び全市町村で連携を図りながら普及啓発・災害時の連携協力に係る検討・情報交換等を行う。

(1) 現用公文書及び歴史公文書等の適切な管理・保存活用のための取組

ア 職員の資質向上のための研修

(ア) 歴史公文書等の評価選別研修会

(イ) 資料保存・修復研修会

イ 部会による個別課題の検討

ウ 市町村訪問による歴史公文書等の評価選別・保存活用推進

(2) 災害時等の資料の滅失・破損防止のための取組

ア 災害時等の連携・協力

イ 地域歴史資料所在調査及び災害アーカイブズ事業

(3) 普及啓発のための取組

企画展「地方写真家が記録した鳥取－振り返る昭和20～30年代－」

〔県史編さん室〕

(1) 新鳥取県史編さん委員会等の運営

新鳥取県史編さん委員会及び専門部会（考古、現代）を開催し、編さん事業の方針や実施計画について審議する。

(2) 調査研究

『鳥取県史』（昭和38～56年度）以後の発見や研究の発展のあった事項、また十分に取り上げられていない事項を調査研究する。

(3) 資料編の刊行

『新鳥取県史 資料編 考古2 古墳時代』

『新鳥取県史 資料編 現代2 経済・社会・文化』 の2巻刊行予定

(4) 鳥取県史ブックレットの刊行

考古分野の1冊刊行予定

(5) 普及事業

事業の成果を分かり易く提供する。

ア 講演会・巡回講座等の開催

イ ホームページでの情報発信（県史だより等）

平成30年度事業概要

〔公文書担当〕

1 特定歴史公文書等の引継ぎ等の状況(平成31年3月31日現在)

(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号アにより引き継いだもの
平成30年度は602冊の引継ぎを行い、合計52,016冊となった。 (単位:冊)

区 分		保 存 区 分	平成29年度まで	平成30年度	合 計
知事部局	本 庁	30年(旧永年)	30,471	56	30,527
		10年以下(旧有期限)	13,174 (30)	395	13,569 (30)
	地方機関	30年(旧永年)	1,655	0	1,655
		10年以下(旧有期限)	1,011 (21)	12	1,023 (21)
	小 計	30年(旧永年)	32,126 (0)	56 (0)	32,182 (0)
		10年以下(旧有期限)	14,185 (51)	407 (0)	14,592 (51)
知事部局以外	教育委員会 本庁	30年(旧永年)	2,093	1	2,094
		10年以下(旧有期限)	658 (9)	15 (1)	673 (10)
	県立学校	—	367 (2)	72	439 (2)
	公安委員会	—	10	0	10
	警察本部	30年(旧永年)	132	0	132
		10年以下(旧有期限)	11	0	11
	選挙管理委員会	30年(旧永年)	0	0	0
		10年以下(旧有期限)	0	1	1
	人事委員会	30年(旧永年)	266	0	266
		10年以下(旧有期限)	13	2	15
	監査委員	30年(旧永年)	27	0	27
		10年以下(旧有期限)	435	43	478
	労働委員会	30年(旧永年)	431	0	431
		10年以下(旧有期限)	3	0	3
	収用委員会	—	2	0	2
病院事業管理者	—	41 (1)	4	45 (1)	
住宅供給公社	—	0	1	1	
土地開発公社	—	9	0	9	
小 計	—	4,498 (12)	139 (1)	4,637 (13)	
県議会	30年(旧永年)	605	0	605	
合 計			51,414 (63)	602 (1)	52,016 (64)

- ① 「鳥取県公文書等の管理に関する条例」(平成24年4月1日施行)に伴い、保存区分が見直され永年が30年となった。また、知事部局をはじめとする15機関が公文書館へ公文書を引き継ぐ機関として位置づけられた。(表には引継ぎのあった機関のみを掲載)
- ② 知事部局本庁の10年・5年保存(旧有期限)文書については、平成23年度までは「鳥取県文書の整理、保管及び保存に関する規程」(平成24年4月1日廃止)に基づき、歴史資料として重要と判断したものを引き継いでいる。知事部局地方機関については、平成7年度から知事部局本庁と同様の方針で引継ぎを実施している。
- ③ その他の機関については、教育委員会本庁(平成8年度から)、人事委員会(平成10年度から)、労働委員会(平成10年度から)、県議会(平成10年度から)、監査委員(平成22年度から)それぞれ知事部局本庁と同様の方針で引継ぎを実施してきた。
- ④ 警察本部の30年(旧永年)については、現行警察制度以前(明治～昭和22年)の文書を平成16年度に引き継いだものである。
- ⑤ 年度末時点で引継ぎが完了していない簿冊は、当該年度の引継数には計上せず、翌年度に前年度までの収蔵数に加えている。
- ⑥ 令和元年度館報から電子簿冊数をかっこ(内数)で計上した。

(2) マイクロフィルムにより複製、保存しているもの

当館所蔵公文書等の不足分を補充するため、他機関等が所蔵する公文書を複製収集しており、また、当館所蔵の劣化した公文書及び県史編さん収集資料についても複製保存している。

(単位:コマ数)

区 分		平成29年度まで	平成30年度	計
欠 落 公 文 書 補 充	県内市町村関係	63,654	0	63,654
	島根県関係	59,381	0	59,381
	福島県移住関係	12,144	0	12,144
	北海道移住関係	18,789	0	18,789
	国立公文書館	477	0	477
	学校調査関係	569,615	0	569,615
	その他	7,640	0	7,640
	計	731,700	0	731,700
劣化公文書		85,355	0	85,355
県史編さん収集資料		108,493	0	108,493
合 計		925,548	0	925,548

(3) 刊行物等の行政資料

(単位:冊)

区 分	平成29年度まで	平成30年度の増減	計
行政資料	33,378	769	34,147
統計資料	26,448	241	26,689
合 計	59,826	1,010	60,836

内規による廃棄を実施しているため数が減少

(4) 寄贈、寄託資料（鳥取県公文書等の管理に関する条例第2条第4号ウによるもの等）

県史編さん関係原文書	362点
寄 贈 資 料	10,126点

※ 県史編さん関係原文書のうち、17点を平成29年度に県立博物館に移管

2 整理・保存の状況

(1) 簿冊等紙資料の修復

劣化・破損の著しい簿冊や書籍、寄贈を受けた貴重資料等を脱酸、裏打ち、漉き嵌め(リーフキャスト)等で修復した。

区 分	平成29年度まで	平成30年度	計
簿 冊	25	3	28冊
図 面 類	606	3	609舗
上記以外の紙資料	39	5	44点

(2) 写真資料等の修復及び電子化

劣化・破損の著しい写真アルバムの修復とともにマイクロフィルム、その他の写真フィルムの電子化を実施した。

区 分	平成29年度まで	平成30年度	計
写真アルバムの修復	22	1	23冊
マイクロフィルムの電子化	126,573	15,951	142,524コマ
写真フィルムの電子化	64,145	0	64,145コマ

(3) 複製本の作成

原本保存と利用者の利便性を図るため、原本やマイクロフィルム等を複製本化している。

区 分	平成29年度まで	平成30年度	計
複製本作成	1,785	0	1,785冊

(4) 簿冊の電子化

センター機能強化・充実事業として、簿冊の電子化を行うとともに簡易検索ツールを作成した。

簿冊管理の適正化と書庫スペースの効率的活用を図るため、簿冊排架位置の確定と書庫情報の付与を行った。

区 分	平成29年度	平成30年度	計
簿冊の電子化	6,000	7,504	13,504コマ

3 利用の状況

(1) 鳥取県公文書等の管理に関する条例第13条に基づく利用請求の状況

区 分	請求者数 (人)	請求件数 (件)	利用決定区分			不服申立 件数
			全部利用	部分利用	利用制限	
引継公文書	61	714	703	11	0	0
寄贈寄託資料	46	1,089	1,065	18	0	0
合 計	107	1,803	1,768	29	0	0

上記のほかに鳥取県公文書等の管理に関する条例第22条による鳥取県職員の利用請求が299人(666件)あり。

(2) 行政資料等の利用状況

区 分	利用者数(人)	件数(件)
一般県民	95	257
県職員	22	359

(3) 閲覧室等での一般の利用状況

月別	来館者数	内 訳				
		資料・展示 閲覧のみ	相談・案内			写しの交付
			資料・簿冊閲覧			
	人	人	人	件	冊	枚
4 月	498	444	54	8	52	99
5 月	378	314	64	12	33	479
6 月	329	290	39	3	3	18
7 月	391	346	45	10	40	175
8 月	512	464	48	12	23	50
9 月	1,093	1,033	60	16	319	126
10 月	689	633	56	15	50	167
11 月	434	391	43	11	45	134
12 月	346	315	31	7	15	66
1 月	352	324	28	8	11	33
2 月	388	345	43	8	53	81
3 月	425	385	40	8	62	17
平成30年度計	5,835	5,284	551	118	706	1,445

(4) 閲覧室等での県職員の利用状況

年 度	利用者数 (人)	資料閲覧・貸出 (冊)
平成30年度	505	1,432

(5) インターネットによる公文書館ウェブサイトの閲覧状況

年 度	閲覧回数 (回)
平成30年度	199,219

4 展示の状況

(1) 常設展

鳥取県の誕生から明治期にかけての資料、昭和20年代後半のカラー写真、鳥取市街を撮影した昭和30—40年頃の写真等を展示した。

(2) 企画展

ア 企画展

テーマ：「小学生が体験した鳥取大火」

内 容：小学生が体験した大火を、文集、写真等で紹介した。

会 期：平成30年4月16日(月)～5月15日(火)

入館者：537人

イ 企画展

テーマ：「鳥取県の誕生とその魅力」

内 容：鳥取県の誕生から島根県への合併、再置、再置後の県政のあゆみ等を、県庁ロビーで展示し、県民の日の趣旨である「県民がふるさとについての理解と関心を深める」ことへの一助とした。

会 期：平成30年8月28日(火)～9月21日(金)

入館者：県庁ロビーのオープンスペースにて実施のため不明

ウ 明治150年特別企画展

テーマ：「明治時代の鳥取県—維新から大正改元までの記録—」

内 容：明治時代の鳥取県の主な出来事、人物等について、公文書や写真等を利用して紹介した(県立図書館、公文書館の2会場で開催)。

会期中に講演会を開催した。

会 期：平成30年9月8日(土)～10月23日(火)

入館者：1,593人(公文書館)、県立図書館はカウントをしていないため不明

5 県市町村が連携・協力した歴史公文書等の保存活用の推進

県や市町村、県民の保有する歴史資料として重要な公文書等の適切な保存及び利活用推進について、県及び全市町村で連携を図りながら普及啓発・災害時の連携協力に係る検討・情報交換等を行う。

(1) 県市町村歴史公文書等保存活用共同会議

ア 第1回共同会議

開催日：平成30年5月9日（水）

内容：「歴史公文書等の評価選別基準の標準例（市町村用）」を決定。平成29年度事業実績について報告、平成30年度事業計画について協議。

参加人数：41名

イ 第1回研修会・部会

開催日：平成30年8月3日（金）

研修会：演題：「太宰府市における公文書の評価選別について」

講師：太宰府市公文書館 藤田理子 氏

部会：部会長を選出。電子決裁・文書管理システムに係る今後の検討の進め方、「歴史公文書等の評価選別基準の標準例（市町村用）」に基づく市町村での取組に係る課題等について協議。

参加人数：31名

ウ 第2回部会

開催日：平成30年11月1日（木）

部会：県の電子決裁・文書管理システムについて、担当者からの説明を聞き意見交換し、実際の運用状況を見学、「歴史公文書等の評価選別基準の標準例（市町村用）」を用いてグループワークによる評価選別を体験。

参加人数：21名

エ 資料保存・修復研修会

開催日：平成30年12月20日（木）

講演「資料保存はデジタル化の波に流されるのか？」

講師：元国立公文書館職員 有友至 氏

ワークショップ「紙資料の修復（繕い、裏打ち）、酸性紙への対応」

講師：有友至 氏、修復工房HATA Studio代表 秦博志 氏

参加人数：35名

オ 公文書館職員による市町村訪問

訪問市町村及び訪問日：米子市、琴浦町（1月31日）、智頭町（3月19日）

内容：「歴史公文書等の評価選別基準の標準例（市町村用）」を活用した評価選別の導入について意見交換、書庫等の見学

(2) 明治150年特別企画展記念講演会

開催日：平成30年9月15日（土）

- ・講演1「公文書と日本人—日本の公文書制度の変遷と課題—」

講師：元日本経済新聞社編集委員 松岡資明 氏

- ・講演2「公文書から見た近代日本の歩み」

講師：独立行政法人国立公文書館長 加藤丈夫 氏

- ・対談「明治時代の鳥取—中央と地方の相克—」

松岡資明 氏、加藤丈夫 氏

参加人数：130名

(3) 明治150年特別企画展（再掲）

テーマ：「明治時代の鳥取県—維新から大正改元までの記録—」

内容：明治時代の鳥取県の主な出来事、人物等について、公文書や写真等を利用して紹介した（県立図書館、公文書館の2会場で開催）。

会期：平成30年9月8日（土）～10月23日（火）

入館者：1,593人（公文書館）、県立図書館はカウントをしていないため不明

(4) 公文書館と図書館、博物館との連携

3館による意見交換の実施

- (5) 歴史公文書等の保存活用に係る市町村との連携事業
- ア 災害時文書搬出必要資機材の備蓄（継続）
中性紙箱、真空圧縮袋、無水エタノール、運搬用折りたたみコンテナ等の管理
 - イ 地域歴史資料所在調査
鳥取県内に残る民間の古文書等歴史資料について、市町村等と協力しながら、所在情報の収集を行い、重要文書や未調査の文書について調査員による現地調査を行った。

6 普及・啓発

- (1) 鳥取看護大学講義
- 日 時：平成30年11月9日（金）、11月16日（金）
 - 内 容：「山陰論」－山陰の近代・県域の変遷－
 - 講 師：伊藤 康
 - 受講生：88名
- (2) 岩美中学校第2学年道徳授業
- 日 時：平成31年2月22日（金）
 - 内 容：「澤田廉三さんの生き方に学ぶ」
 - 講 師：伊藤 康
 - 受講者：106名（生徒）、教職員
- (3) 日野町古文書に親しむ会
- 日 時：原則毎月第4日曜日（11回開催）
 - 内 容：「福田久道家譜」を読む及び現地調査
 - 講 師：伊藤 康
 - 受講生：8～10名
- (4) 公文書等資料の保存と管理について講師を派遣
- 名 称：平成30年度文書管理主任研修会
 - 目 的：文書審査の要点、簿冊・公印の管理、歴史資料としての公文書の取扱い等について理解を深め、公文書管理条例及びその関連規程に沿った適切な文書事務が行われるようにする。
 - 日 時：平成30年7月24日（火）、26日（木）、31日（火）
平成30年12月13日（木）、18日（火）、21日（金）
 - 場 所：鳥取県庁、西部総合事務所、中部総合事務所
 - 内 容：公文書館の業務／評価選別の実務／不適切な事例／簿冊名の公表・検索のお知らせ／行政刊行物送付のお願い／歴史公文書等評価選別方針の改訂案
 - 講 師：島谷 容子（公文書館係長）
 - 参加者：延べ351名（実施機関の文書管理主任等）
- (5) 県外からの依頼により講師を派遣
- ア 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会
概 要：公文書管理条例の先進県事例として、条例が出来た経緯や制定後の取組などを報告した。
日 時：平成30年9月19日（水）
場 所：滋賀県庁
講 師：島谷 容子（公文書館係長）
参加者：74名（全史料協会員、滋賀県庁職員等）
 - イ 平成30年度行政文書・古文書保存管理講習会
概 要：歴史公文書等の評価選別標準例（市町村用）の策定経緯や解説を中心に、鳥取県における市町村支援の取組について報告した。
日 時：平成30年11月29日（木）
場 所：広島県情報プラザ
講 師：島谷 容子（公文書館係長）
参加者：約50名（広島県職員、市町職員、広島大学等）

- (6) 鳥取県立公文書館報第28号の発行
公文書等の管理の状況を公表するため、鳥取県立公文書館報第28号を作成し、平成30年5月にホームページで公開した。

〔県史編さん室〕

1 新鳥取県史編さん委員会等の運営

「新鳥取県史編さん事業」の編さん方針等を審議するため、編さん委員会委員を委嘱し、会議を開催した。

(1) 委員名簿

平成30年度 新鳥取県史編さん委員会委員(部会別)

氏名	役職等 (H30.4.1現在)
(考古部会)	
1 高田 健一	鳥取大学地域学部准教授
2 根鈴 智津子	倉吉市教育委員会文化財課課長
3 下高 瑞哉	米子市経済部文化観光局文化振興課文化財室長
4 中原 斉	県教育委員会文化財課課長
(古代中世部会)	
1 秋山 伸隆	県立広島大学名誉教授
(近世部会)	
1 池内 敏	名古屋大学大学院人文学研究科教授
2 谷口 啓子	元県立公文書館非常勤職員
3 坂本 敬司	元県史編さん室長
4 山脇 幸人	倉吉市立図書館長
5 伊藤 康晴	鳥取市文化財団主査学芸員
6 来見田 博基	県立博物館主任学芸員
(近代部会)	
1 岸本 覚	鳥取大学地域学部教授
(現代部会)	
1 小山 富見男	鳥取地域史研究会会長
2 喜多村 理子	鳥取短期大学講師
3 佐々木 孝文	鳥取市教育委員会文化財課課長補佐
4 石田 敏紀	県立倉吉西高等学校教諭
(民俗部会)	
1 坂田 友宏	米子工業高等専門学校名誉教授
2 喜多村 正	島根大学名誉教授
3 喜多村 理子	鳥取短期大学講師
4 轟 理恵子	跡見学園女子大学教授
5 福代 宏	県立博物館主幹学芸員
6 原島 知子	県教育委員会文化課文化財主事
(県)	
1 井上 靖朗	県総務部長
2 森田 靖彦	県教育委員会次長

(2) 会議

- 平成30年 5月 2日：第1回現代部会
5月18日：第1回考古部会
6月13日：第1回近世部会
7月 9日：第1回民俗部会
8月 1日：第1回新鳥取県史編さん委員会
8月22日：第2回現代部会
10月23日：第2回近世部会
11月15日：第2回考古部会
12月 3日：第2回民俗部会
12月26日：第2回新鳥取県史編さん委員会

2 各専門部会の活動

(1) 考古部会

- ア 『資料編 考古2 古墳時代』の編集
イ 古墳測量
・ 航空レーザー測量による古墳4基（下味野23号墳、海又1号墳、笠取塚古墳、後塔山古墳）の測量
ウ 遺物再整理
・ 資料編に掲載する資料の実測および実測図のトレース

(2) 古代中世部会

- ア 個人が所蔵する県内中世資料の所在確認調査
イ 収集資料の整理
・ 県史編さん事業で撮影・複製した古代中世資料の目録作成、写真データ整理、公開許諾手続き

(3) 近世部会

- ア 『資料編 近世6 因府歴年大雑集』の編集・刊行
イ 鳥取県史ブックレット20『因府歴年大雑集を読む』の編集・刊行

(4) 近代部会

- ア 資料調査
・ 重要近代資料の調査
県外：安達清風関係資料（津山市）

(5) 現代部会

- ア 資料調査
・ 資料編収録候補となる現代史料の調査・撮影
県内：鳥取県立公文書館、鳥取県議会図書室、鳥取県立図書館等
国立公文書館、国立国会図書館（千代田区）、個人宅等
イ 占領期の鳥取を学ぶ会の開催
・ 英文の鳥取軍政部活動報告を解読し占領期の鳥取について学ぶ県民参加の連続講座を鳥取市歴史博物館と共同で開催（月1回）

(6) 民俗部会

- ア 『民俗2 民具編』の編集・刊行
イ 民具調査
・ 泊歴史民俗資料館の漁労用具（湯梨浜町）、智頭林業関係資料（智頭町）、うぐい突き関係資料（南部町）、日南町大宮炭関係（日南町）等の調査を実施。

3 刊行物

(1) 資料編 (①はA4判・7,000円、②③はA5判・各5,000円)

- ①『新鳥取県史 資料編 近世3 因府歴年大雑集』(H31.3.29刊行、644頁、490部印刷)
- ②『新鳥取県史 資料編 現代1 政治・行政』(H31.3.29刊行、820頁、420部印刷)
- ③『新鳥取県史 民俗2 民具編』(H31.3.29刊行、454頁、450部印刷)

<販売場所>

公文書館、県庁県民課、八頭庁舎八頭県土整備事務所、中・西部総合事務所地域振興局、日野振興センター日野振興局地域振興課、県内各書店、鳥取県立博物館、鳥取市歴史博物館

(2) ブックレット (A5判・500円)

第20巻『因府歴年大雑集を読む』(H30.3.25刊行、110頁、1,000部印刷)

著者：新鳥取県史編さん委員会近世部会委員6名

<販売場所>

公文書館、県庁県民課、八頭庁舎八頭県土整備事務所、中・西部総合事務所地域振興局、日野振興センター日野振興局地域振興課、県内各書店、鳥取県立博物館、鳥取市歴史博物館

(3) クレジットカード利用による刊行物の配送販売

県外の方、窓口での購入が困難な方には、直接送付も可能で、支払方法は、銀行振込以外に、新たにクレジットカードによる支払いも可能となった。

4 普及事業

(1) 講演会

期日	会場	講座名(担当者)・テーマ	参加数
5/12～ (土)	鳥取市歴史博物館	連続講座「占領期の鳥取を学ぶ会」 *毎月1回開催	のべ 131
4/21 (土)	イーブル名古屋	「尼子氏と戦国時代の鳥取」 (岡村吉彦県史編さん室長)	20
5/26 (土)	鳥取市歴史博物館	「鳥取大火後の防火建築帯について」 (西村芳将課長補佐)	15
6/23 (土)	鳥取市歴史博物館	「近世因幡地域の神社と神職について」 (八幡一寛専門員)	32
7/27 (金)	鳥取市文化センター	「戦国武将による伯耆国大山寺造営について」 (岡村吉彦県史編さん室長)	160
10/20 (土)	県埋蔵文化財センター	「なぜ因幡に山陰最古の前方後円墳が造られたのか」 (東方仁史専門員)	30
12/3 (日)	湯梨浜町中央公民館 泊分館	「戦国時代の河口城とその周辺」 (岡村吉彦県史編さん室長)	45
2/23 (土)	イーブル名古屋	「中世における鳥取の城と合戦」 (岡村吉彦県史編さん室長)	20

(2) 県史だよりの発行

記事内容：歴史・民俗に関する小記事など

発行形態：ホームページ版と紙版(A4判4ページ、県内図書館などへ配布)

発行頻度：月1回

(3) ホームページの更新

記事内容：①巡回講座、ブックレット刊行の案内など(随時更新)

②史料調査のレポートなど(最近の活動から)(随時更新)

③県史だよりの更新(月1回更新)

利用案内

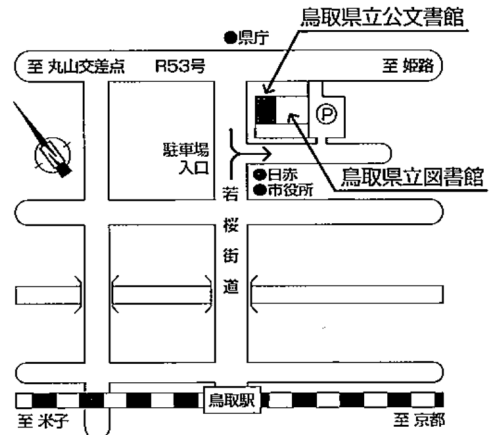
開館時間

●月～金曜日 9:00～17:00

休館日

- 日曜日、土曜日
- 国民の祝日及び振替休日
- 年末年始（12月29日～1月3日）
- 展示コーナーについては、年末年始及び月末に当たる場合を除き、日曜日、土曜日にも入館できます。

案内図



徒歩 鳥取駅から若桜街道を県庁方向へ
徒歩20分

バス 鳥取バスターミナルより
湖山・鳥大線、賀露線など
「県庁日赤前」下車徒歩1分

鳥取県立公文書館報

第29号—令和元年度—

令和元年5月発行

編集・発行 鳥取県立公文書館

〒680-0017 鳥取市尚徳町101番地

電話 (0857)26-8160

ファクシミリ (0857)22-3977

電子メール kobunsho@pref.tottori.lg.jp

<https://www.pref.tottori.lg.jp/kobunsho>